

自己評価について

令和5年度 日南市立油津小学校自己評価及び学校運営協議会委員評価

【4段階評価】 4…期待以上（8割以上） 3…ほぼ期待どおり（5～8割未満） 2…やや期待を下回る（3～5割未満） 1…改善を要する（2割未満）

重点目標	教育目標との関連	方策	具体的な取組	具体的な数値目標	評価	考察	学校運営協議会委員評価	
							評価	所見
教育課程の工夫・改善	PDCAサイクルを基にした教育課程の工夫・改善を図る。	常にPDCAサイクルを意識して教育課程を工夫・改善を行う。	学校関係評価の充実 ・行事ごとの評価 ・学期ごと及び年間の評価 ・学校評価の公表	学期ごとと行事ごとの評価を集計して、次の学期・年度の計画・指導に生かす。	3	学期ごとの評価は、おおむね期待以上の評価であった。行事ごとの評価は不十分なものもあった。本年度の課題をもとに、各行事の取組を充実させていく。	3	○ 本年度の評価を生かして、次年度の取組につなげてほしい。 ○ 地震や津波発生時の対応に関するアンケートで、家庭の意識の低さが課題である。
			校務支援ソフトの活用	校務支援ソフトで必要な操作ができる職員 100%	4	校務支援ソフトはほぼ活用できている。	4	○ ICTの活用が充実しているので、継続してほしい。
		地域の伝統・文化・人材の活用	地域と一体になって児童への教育効果を高めるための地域人材を積極的に活用	年間計画を見直し、年間2回以上地域人材を活用した教育活動をおこなう。	4	地域学校協働活動や油津地域協議会との連携を図り、生活科や総合的な学習の時間、社会科等で地域の人材活用が図られた。	4	○ メディアによく取り上げられていた。地域と一体となった活動が見られた。 ○ 次年度も地域の人材を積極的に活用して、教育効果を高めてほしい。
現職教育の充実	◎現職教育を充実し、教職員のスキルアップを図る。	主題研を中心とした研修の充実	主題研究とその他の現職教育の充実 ・研究内容の充実 ・授業公開の実施 ・授業評価の実施と反省 ・各学力調査の分析を生かした授業計画等の年間指導計画の見直し	一人一回以上の授業公開を行う。※代表授業の実施 学力調査の結果より、重点指導領域を決め、目標値を上回るようにする。	4	一人一回の授業公開や下学年と高学年での研究授業を実施することで、授業力の向上を図った。 学力調査の結果をもとに理解の定着が図られていない問題の補充指導を継続して行う。	4	○ 授業公開によって、教職員の授業力の向上を感じた。 ○ 本年度の取組を継続して、来年度の成果につなげてほしい。
		「OJT」の充実	・初期研修やその他の研修を活用 ・教科担当を工夫したOJTを促進	教科主任を中心にOJTを活かした研修を組む。 月2回の学年研の時に、教材研究を行う。	3	夏季休業研修の際に、OJTを活かした図画工作科研修を組み、教職員のスキルアップを図った。 タブレットを活用し、教材研究の効率化が図られている。	3	○ 次年度も教職員の授業力向上につながるOJTを推進してほしい。

重点目標	教育目標との関連	方策	具体的な取組	・具体的な数値目標	評価	考察	学校運営協議会委員評価
基礎学力の向上対策	◎学び方を身に付けて、自らの課題を解決する能力を育てる。	○基礎学力が身に付く指導の工夫	○一単位時間内の定着の時間の確保 ○定着の確認と個別指導 ○さわやかタイムの計画的活用	単元テストの平均が80%以上をめざす。	3	教師の発話を精選し、児童の考える時間を確保し、発言が多くなるように授業展開を工夫した。定着の時間にタブレットのドリル学習ができています。学習の基盤となる、筆箱の中身について、学習の約束カードを配付して指導を行った。家庭への啓発が必要である。	○ 学力の定着にはのびしろがあるという説明であったが、授業参観や保護者の話で授業に集中できない児童もいる。時間を決めて習慣付ける必要がある。 ○ 授業に集中できない児童は、保護者との連携が大事になってくる。
			○校内読書の推進	貸出冊数一人平均60冊読書をめざす。	3	図書委員会の活動や週1回の巡回図書司書の訪問、昼休みの図書室開放の再開により貸出冊数は順調に伸びている。	○ 個人差が見られるのではないかと。スマホ等の情報端末機器の利用と関連付けて、読むことの大切さを伝えていってほしい。
家庭学習の充実対策	◎個に応じた家庭学習の指導を行い、自ら取り組む油津健児の育成を図る。	○学習習慣が身に付く家庭学習の指導の充実	【学校の取組】 ○やるべきことがわかりやすい指導 ○個に応じた内容の検討 ○やる気を促す量や内容の工夫 ○見届けの徹底 【家庭の取組】 ○学習環境作り ○見届けの徹底	年度初めの参観日等を利用し学習のきまり等を保護者に説明する機会を設ける。 家で毎日勉強をしている児童90%以上を目指す。	3	懇談会や学級通信で学習のきまり等を保護者に説明する機会を設けた。家庭学習が習慣化されていない児童には、個別に指導したり理解度に応じた内容や量を与えたりして、意欲の向上を図っている。	○ 毎日、家で勉強しない家庭もあると聞いている。家庭学習の習慣化に努めてほしい。
校内での生活態度向上対策	◎集団生活の中で豊かな心をもった油津健児の育成を図る。	○「当たり前」実践指導の充実	○「当たり前」実践指導の充実 ・あいさつの指導 ・廊下、階段の使い方 ・言葉遣いの指導 ・清掃指導	・進んで挨拶をする児童100% ・右一無言の児童100% ・さん付け100% ・無言清掃100%	3	どの項目についても、児童や保護者の自己評価は高いが、教職員の評価とのずれが大きい。委員会活動での朝のあいさつ運動や清掃時間の声掛け、教室移動時の教員引率等の手立てをとった。特に、右一無言は継続して指導する必要がある。	○ 登校時のあいさつは少し増えてきたが、まだまだのところがある。学校で学んだことを地域でも発揮してほしい。

重点目標	教育目標との関連	方策	具体的な取組	・具体的な数値目標	評価	考察	学校運営協議会委員評価
校外での生活態度向上対策	◎主体的に判断し、行動できる自律的な規範意識を育む。	○休日や放課後等の生活指導の徹底	○休日や放課後等の生活指導の徹底 ・連休前指導の徹底 ・放課後の生活指導の徹底 ・長期休業に関する指導の徹底 ・情報モラルの指導と充実	・交通事故0 ・5時帰宅100% ・お金のトラブル0 ・SNSのトラブル0	3	全体的には休日や放課後等に大きな問題は起こらなかった。公共施設の使い方やお金の貸し借りの事案も見られる。全体指導や啓発、個別児童を継続していきたい。 情報モラルの指導については各学級で指導や啓発を行った。スマホの所持率も高く、よりよい判断ができるように指導を継続していく。	3 ○ 公共施設の利用についての指導は必要であるが、公園で元気に遊んでいる姿が見られるのは大変よい。どんどん遊んでほしい。
基礎体力の向上対策	◎運動に親しみ、自ら体力向上に取り組む油津健児を育成する。	○運動の楽しさを実感できる体育科学習の工夫	○楽しい体育の授業の充実、達成感・成就感を味わわせ、楽しく運動に取り組むための指導の工夫	ストレッチ体操を毎週2回取り組む。	3	体育の時間に準備運動としてストレッチ等を行っている。運動習慣や能力は二極化している。体力テストの結果を踏まえ、継続して行える運動を工夫していく必要がある。	3 ○ 運動会や持久走大会で、走ることに課題の見られる児童が見られた。個別指導の必要性とともに専門性のある外部講師などの活用も期待したい。
		○体育科外での体力向上	○学校生活全体を通じた体力向上 ・外遊びの奨励(体育館開放) ・各種運動月間(持久走、なわとび) ・委員会活動の運動	週に3日以上は外遊びをする。	3	よく遊んでいる子も多いが、室内で過ごすことを好む子もいる。運動に親しむ習慣づくりについて啓発していく。	3 ○ 外遊び、肥満傾向、食育の3つのキーワードに即した対策が必要である。運動嫌いが、学習嫌いにつながり、学校への登校渋りという連鎖も心配される。
生活習慣の向上対策	◎自他の健康に関心をもち、自主的に健康・安全な生活を実践しようとする資質や能力の育成を図る。	○生活習慣指導	○学級、保健室における常時指導 ・朝の会、健康観察等 ・肥満傾向児童に対する個別指導	肥満傾向児の割合が10%未満	3	肥満傾向児の割合が12.8%で改善は図られていない。今後も指導や啓発を継続していく。	3 ○ 肥満傾向児の意識や家庭のかかわりはどのようになっているか。学校だけの指導では改善は難しいので家庭と連携してほしい。
		○栄養職員との連携による食の指導	○学級活動や総合的な学習の時間、給食指導等における食育指導の充実 ・クラスルーム給食を活用した食育指導 ・「弁当の日」の継続	学期1回クラスルームを活用した食育指導	4	栄養教諭によるクラスルーム給食は予定通り学期1回実施でき、食の指導を充実させた。	3 ○ 給食の残菜やおかわりはどのようになっているか。児童の成長を念頭に、家庭での食習慣について啓発が必要である。